

第6回食育活動表彰 受賞者インタビュー

2022年6月7日発行

中国四国農政局

消費・安全部
消費生活課

(令和4年3月30日撮影)

農林水産省は、ボランティア活動、教育活動、農林漁業、食品製造・販売等その他の事業活動を通じた食育関係者の取組を対象として、その功績を称えるとともに、その取組の内容を広く国民に周知し、食育を推進する優れた取組が全国に展開されていくことを目的として、「食育活動表彰」を実施しています。

今回は、インターネットによる郷土料理の動画配信に取り組み、愛媛産の食材と食文化の魅力を発信し、「第6回食育活動表彰」において消費・安全局長賞を受賞された「愛媛県農山漁村生活研究協議会」の活動をご紹介します。

動画で紹介「えひめのふるさとごはん」 ～自然の恩恵を一番理解する者として～ 愛媛県農山漁村生活研究協議会

愛媛県農山漁村生活研究協議会で、会長を務める松木明子さんにお話を伺いました。

農政局：貴会の「郷土料理の伝承活動」とは、どのような活動ですか。

松木さん：愛媛県は大きく東予・中予・南予地域の3地域に分かれます。各地域には特色のある、また地域行事に由来する郷土料理が数多く残っています。

これらを次世代に継承していくことを目的に、小学校に通う児童・保護者を対象に当協議会の会員が先生となり調理指導・試食・意見交換を行う講座を開催しています。



食文化普及講座でコロッケづくり



地元の農産物や郷土料理を展示

農政局：「郷土料理の伝承活動」に取り組まれた経緯・きっかけを教えてください。

松木さん：以前は、お祭りや冠婚葬祭、彼岸などで郷土料理が作られていましたが、現在は作る機会はもちろんですが、食べる機会も少なくなっています。このままでは郷土料理が途絶えていくとの協議会の会員からの声もあり、次世代へ繋げていこうと取り組みを開始しました。

農政局：コロナ禍で直接交流する機会が減少する状況において、インターネットでの動画配信を始められる際に苦労したことは何ですか。また、対面での活動と比較してどうですか。

松木さん：動画撮影・編集など初めてのことばかりで苦労しました。動画で伝える場合は手元を中心に撮影し、わかりやすく編集することがポイントになりますが、コツを得られず何度も撮り直すなどしました。

対面の活動との違いは、一度に多くの人に見てもらえることができることや繰り返し見ることによって技術を確認できるなどの利点もあり、それぞれの特徴を生かした場面に活用できると考えています。



郷土料理の動画撮影



親子で郷土料理を学ぼう

農政局：活動を通じて、どのような成果や反響がありましたか。

松木さん：講座を体験したお子さんが、料理に興味を持ち、家庭でお母さんと一緒に料理をするようになった等のうれしい話がありました。

また、お母さんも今まで作らなかった料理に挑戦するようになるなどしているようです。

農政局：今後の展開をお聞かせください。

松木さん：今後も、各地区で動画を作成していく予定にしています。動画を作成することで、協議会の会員も技術交換ができ情報共有の場にもなっています。

また、コロナ禍ではありますが、できるだけ対面での講座も開催し、地域に伝わる郷土料理と会員がもつ技術の伝承に今後も取り組んでいこうと思っています。



食農教育フォーラムを開催

【お問い合わせ先】

中国四国農政局 消費・安全部 消費生活課

〒700-8532 岡山市北区下石井1-4-1

TEL (086) 224 - 9428 (直通)

<農政局HP> <http://www.maff.go.jp/chushi/index.html>